株式会社三菱総合研究所

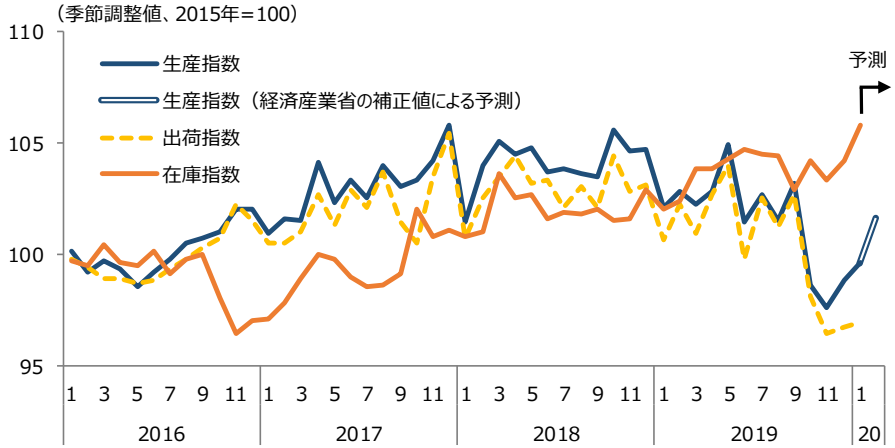
日本

鉱工業生産指数（2020年1月）

2カ月連続での増加も、先行きは弱い動きが続く見込み

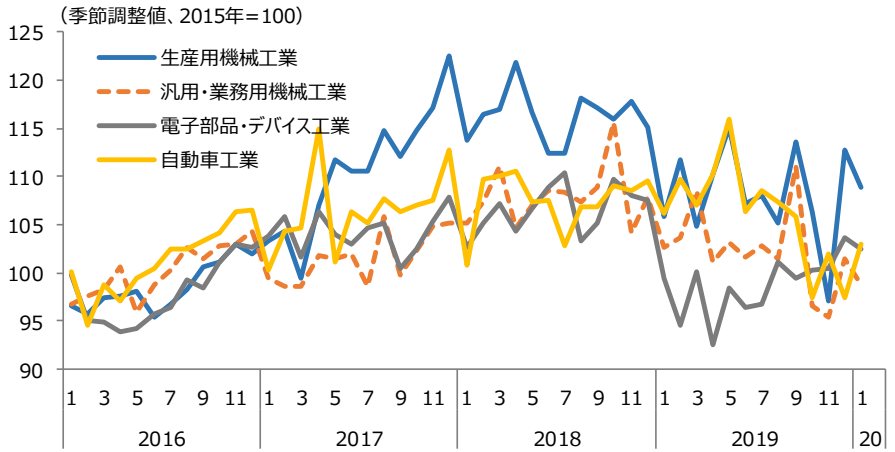
政策・経済研究センター
田中康就
03-6858-2717

1 鉱工業指数（生産・出荷・在庫）



出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

2 業種別の生産指数



出所：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

今回の結果

- 20年1月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比+0.8%と2カ月連続で上昇。
- 業種別にみると、15業種のうち8業種が増加した。特に、生産に占めるウェイトの大きい自動車工業（季調済前月比+5.5%）が全体を押し上げた。自動車工業は、輸出の下げ止まりを背景に、生産がやや持ち直している。
- 電子部品・デバイス工業（同▲1.3%）は、4ヶ月ぶりに小幅減少したが、世界的な半導体関連需要に下げ止まり感が出ており、19年半ば以降は緩やかな増加基調にある。
- 生産用機械工業（同▲3.4%）や汎用・業務用機械工業（同▲2.8%）は中国向けを中心に輸出が減少傾向にあり、18年に比べて低い水準での推移が継続。汎用・業務用機械工業は、在庫水準が高く、在庫調整圧力も生産を抑制しているとみられる。
- 製造工業生産予測調査によると、2月の生産は季調済前月比+5.3%、予測値と実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値も同+2.0%程度と、増加が予想されている。ただし、上記調査の実施時期は2月上旬であり、その後の新型コロナウイルスの感染拡大の影響は織り込まれていない。2月の生産は予測から下振れる可能性が高い。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、輸出の減少傾向や、消費税増税の影響を受け、低調な推移が継続している。1月の生産は2カ月連続で増加したが、出荷は横ばいであり、生産の基調は弱い。
- 先行きの生産は、20年前半にかけて弱い動きが続くと見込む。中国での新型コロナウイルスの感染拡大が、①中国向け輸出の減少や、②サプライチェーンの寸断などを通じて、日本の生産の下押し要因となろう。特に、中国との輸出入の比率が高い電子部品・デバイス工業や、生産用機械工業、汎用・業務用機械工業は上記の①の影響が、在庫水準が低い自動車工業は上記②の影響を受けやすいと考えられる。
- 生産の下振れリスク要因は、①日本を含む中国以外の国・地域での新型コロナウイルスの感染拡大・長期化、②世界経済の減速に伴う輸出減少の国内雇用・所得環境への波及、③消費税増税後の消費の低迷長期化、などが挙げられる。これらリスクが顕在化した場合、海外経済の減速や、サプライチェーンの寸断、内需の縮小を通じて、生産の下振れにつながる可能性がある。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.